

- (ロ) 送り金とその下の掃除
- (ハ) 油さし 油は良質のものを選び、各軸受部その他摩擦部に一滴づつさします。
- ハ 起りやすい故障

(イ) 針目のとふ時 針の位置、上糸の掛け方及び糸と針と布とがそれぞれ適當であるかどうかを調べます。

(ロ) 糸が切れる時 上糸の掛け方、針の附け方、糸と針との釣合及び糸の強さを調べ、又ほこりがたまつてゐないかどうかを調べます。

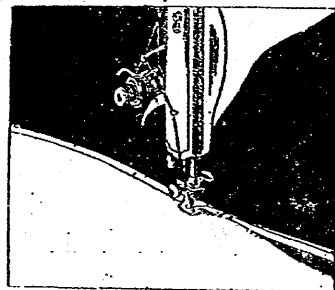
(ニ) 布を送らない時 針目加減ぬちの位置を調べ、又送り金の出方を調べます。

(三) 車が動かない時 梭に糸が挟まつてゐないかどうかを調べます。

### 〔増〕 ミシンの附屬具

附屬具は特に微妙なはたらきをもつてゐますから、細心の注意を要しますが、少し練習すると、重寶なものです。

#### 一 糸附け具



文部省調査局刊行課寄贈

(中) ¥ .30

(112)

# 中等被服一

文部省

昭和二十一年四月一日印刷 同日翻刻印刷  
昭和二十一年四月五日發行 同日翻刻發行  
〔昭和二十一年四月五日 文部省検査済〕

中等被服 一 〔中〕定價參拾錢  
著作權所有 著作者 文 部 省  
發行者 發行者

APPROVED BY MINISTRY  
of Education  
(DATE Apr. 1, 1946)

東京都神田區岩本町三番地  
發行所 中等學校教科書株式會社  
代表者 總 井 寅 雄  
印刷者 大日本印刷株式會社  
代表者 佐久間 長吉郎

發行所 中等學校教科書株式會社

教科書番號 112ノ一

|                |    |
|----------------|----|
| 四 制服           | 七  |
| 夏上衣            | 九  |
| 五 運動服          | 二六 |
| 上衣             | 二九 |
| 中ばき            | 三三 |
| 六 下着類          | 三六 |
| 冬季用下ばき         | 三八 |
| その一            | 三七 |
| その二            | 三七 |
| 中着             | 三八 |
| 〔増〕下ばき・中ばき・中着  | 三九 |
| 七 作業服          | 四〇 |
| 作業服下衣          | 四二 |
| 〔増〕作業前掛        | 四三 |
| 八 標準服乙型        | 四四 |
| 二部式單           | 四五 |
| 九 子供用足袋類(編み物)  | 四六 |
| その一            | 四七 |
| その二            | 四七 |
| その三            | 四七 |
| 〔増〕幼児用下ばき(編み物) | 四八 |
| 〔増〕刷着(編み物)     | 四九 |

おさへ金を外し、おさへ縁に、おさへ金と同様の方法で取り附けます。

縁布は真斜めに幅二・五センチ（七分）ぐらゐに裁ち、縁布の幅を二つに折り、端を斜めに切つて縁附け具に通します。

縁を附ける布を縁附け具のラッパのくぼみに十分奥までさし入れ、すべり出さないやうにして縫ひます。

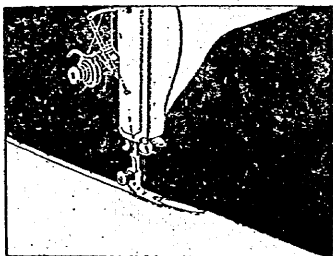
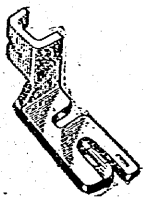
縁を附ける布と縁布との釣合に氣をつけないけません。

◇ 縁布はどんな地質が適しますか。

◇ 色・柄に就いてはどんな注意がいらしますか。

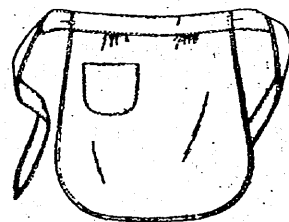
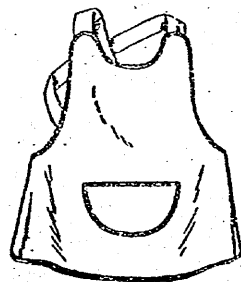
## 二 三つ巻き具

縁附け具と同様にして取り附けます。



布の端をごく細く折り、三つ巻き具にさし入れて、布を縫へます。  
三つ巻き具の中には、常に同じ幅だけ布地の縁がはいるやうにし、  
布地を平にして縫ひます。

縫ひ目の位置は三つ巻き具の取附け方によつて調節されます。

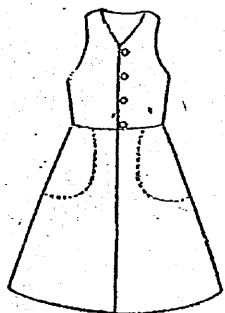
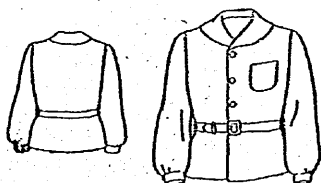


四 制服



私どもは制服を着て益々生徒としての喜びと責任とを感じます。  
私どもは仕立てから着用・手入れ・保存など被服生活の要領を、この  
制服を通して正しく修練し、それによつていろいろな婦徳を身につけな  
ければなりません。

規格



〔一〕 構成

上衣と下衣の二部式。

〔二〕 材料

紺色のサージの類。但し夏の上衣は白色のポプリンの類。

〔三〕 製式

上衣



前は右前合はせとして、三箇のボタンで留める。

ボタンの色は布と同系の色とする。衿はへちま型とし、夏着のほかは白の裏衿を附ける。

袖は山を低くして前後のくりを同じにし、袖先には襷を取つて幅約四センチ（一寸）の袖口布を附け、ボタン掛けとする。

暑熱の時期には半袖とすることもできる。

幅三・五センチ（九分）の帯を附け、留め具を用ひてしめる。

左胸部に表かくし一箇を附ける。



下衣

襷なし、裾開きとし、裾廻りは一八〇センチ（四尺七寸五分）程度とする。

丈は膝下七センチ（一寸八分）ぐらゐとする。

上部は胸衣にボタン掛け、又は縫ひ附けとする。

左右兩側の縫ひ目にそれ／＼縦式内かくし一箇を附ける。

寒さのきびしい地方では、以上の製式によらないものを用ひることが出来る。

下衣の下には、膝下までの同色の中ばきをはく。但し、夏は適宜とする。

夏 上 衣

材料

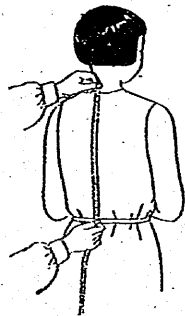
規格材料が得られなければ、夏上衣に適當なあり合はせの材料を用ひます。

仕立て方

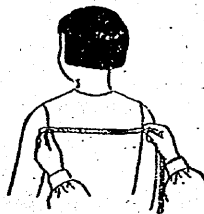
一寸法の測り方

胸廻り・ゆきのほかに、次の箇所を測ります。

背丈 先づ、胸の一番細い所（胸廻り線）に紐をしめ、後中心に於いて頸のつけ根からこゝまでの長さを測る。



背丈



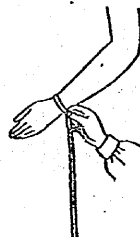
背幅

背幅 左右の腕のつけ根の間を測る。  
 頸廻り 頭のつけ根の廻りを測る。  
 手くび廻り 手くびの廻りを測る。



頸廻り

手くび廻り

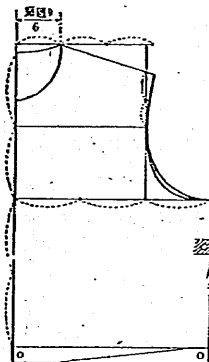


## 二 原型の取り方

現在の身長と胸廻りとで、胸の原型をお書きなさい。  
 それを次のやうにお直しなさい。

衿ぐりは頸廻りの六分の一とする。

「くせ」は前下りと同じ寸法を脇でつまむ。



なほ背丈・背幅は實測寸法と照らし合はせ、割出して具合のわるい所を直して、原型を仕上げなさい。

- ◇ 衿ぐりを改め、又「くせ」を取つたのはなぜでせうか。
- ◇ 「くせ」はどの邊でつまみますか。

## 三 型紙の取り方

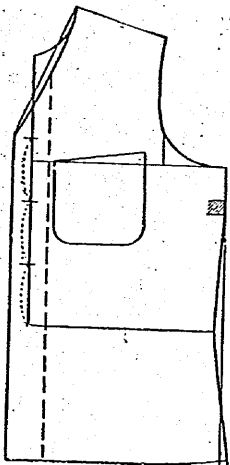
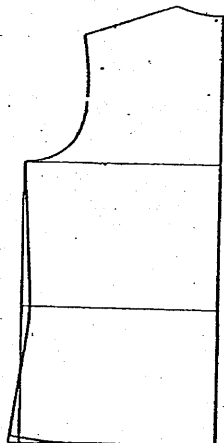
### (一) 身ごろ

身丈は前後それぞれ一五センチ(四寸)ぐらゐづつ伸ばします。

脇線は胸廻り線で一センチ(三分)ぐらゐくり込み、裾は同じくらゐを出します。

前中心から重なりを半分を出します。

衿ぐりは前中央で原型から四一六センチ(一寸から一寸六分)ぐらゐ下げてくります。



ボタン穴の位置を定め、第一ボタンと第二ボタンとの中央あたりに、大きき一〇センチ(二寸六分)ぐらゐにかくしを書きます。

(二) 衿

肩先を肩幅の三分の一乃至二分の一ぐらゐ重ねて、圖のやうに書きまゝ。

衿幅は八センチ(二

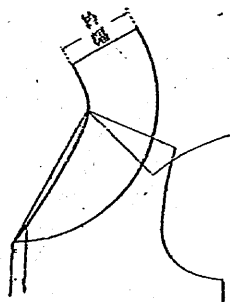
寸)ぐらゐ、衿腰は二

センチ(五分)以内と

なるやうにします。

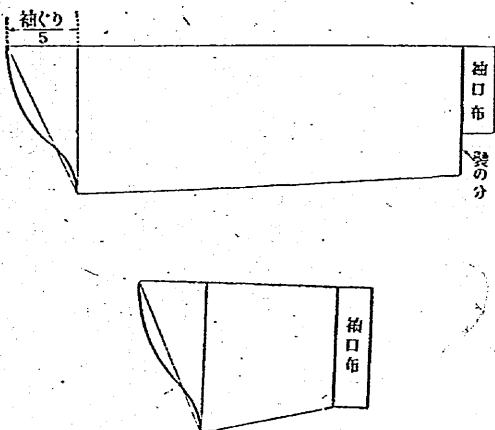
◇ 衿腰を低くする

理由を考へなさい。



(三) 袖

袖口布 縫ひ分



袖附け線の長さを測り、「いせ」の分として、身ごろの袖ぐりより

二センチ(五分)ぐらゐ長くなるやうに、袖下線を書きます。

◇ 袖丈はどうしてきめますか。

四 裁ち方

(一) 地直し

布目が曲つてゐたり、水にあふと縮んだりするものなどは、裁つ前に地直しをします。それには、常に先づ、その一部分を調べて後、地直しの要不要や適当な方法などをきめます。

◇ 洗濯による経・緯の縮みが、服の大きさにどう影響しますか。

地直しの主な方法

水に浸す仕方 布をしわにならないやうに正しく水中にさし入れ、おししぼりをし、なるべく廣い臺の上に擠げて乾かします。

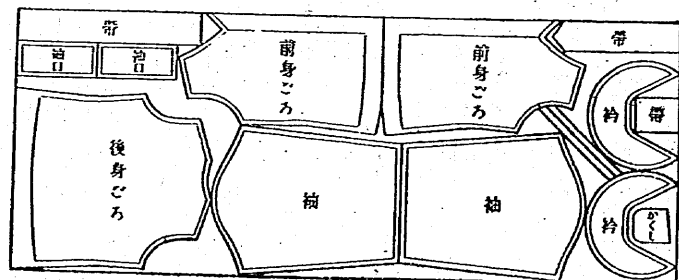
霧を吹く仕方 水に浸す代りに霧を十分吹いてもできます。布目正しく巻き棒に巻き、生乾きの間に正しく擰げて乾かします。

アイロンをかける仕方 絹は裏からあまり熱度の高くないアイロンをかけます。そのほか水分を與へたものは、生乾きの間にアイロンをかけます。初めは軽く當て、後、乾くにつれて、布目に沿つておしつけるやうにして、十分乾くまでかけます。

(二) 裁ち方

◇ 自分の布の取り方、縫ひ代の附け方を圖解してごらんなさい。  
◇ 後に大きくすることができるとは、縫ひ代をどう加減しておきますか。  
◇ 布が足りない時はどんな工夫をしますか。

布幅 七三センチ  
(一尺九寸)  
総用布 一八八センチ  
(四尺九寸六分)



◇ 標の附け方にはどんな注意がいりますか。

### 五 縫ひ方

女生徒としての品位を保つやう、着くづれのしないやう、丈夫に正しく縫ひます。

(イ) 身ごろと衿の假縫ひ 先づ、前身ごろの見返しを折り、肩・脇の假縫ひ合はせをし、裾を折り上げます。

前の「くせ」は、つまんでおきます。衿は假衿を附けます。

◇ 前後の肩の釣合はどうしますか。又その理由を考へてごらんなさい。

着てみて、丈・幅の具合及び衿ぐり・衿・袖ぐりなどを調べます。

(ロ) 前あきの始末

(ハ) かかし附け

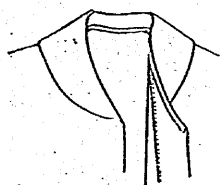
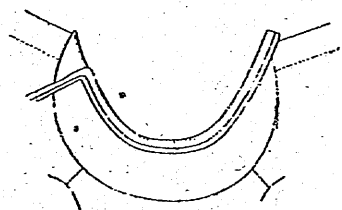
(ニ) 肩合はせ

(ホ) 脇縫ひ 前は「くせ」をつまんだまゝ袋縫ひにします。

(ヘ) 裾の始末

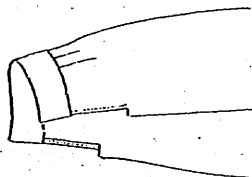
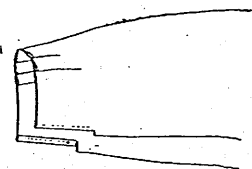
(ト) 衿及び衿附け 裏表の衿を合はせて縫ひ、縫ひ代を細く裁ち切つて表へ返します。周囲にミシンをかけてもよいでせう。

身ごろと斜め布とで衿を挟んで附け、縫ひ代を浅く裁ち切り、斜め布の端を折つてまつり附けるか、或はあさへミシンをかけます。この時、衿を肩廻りで少しづつせ加減にします。



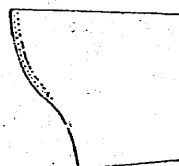
- ◇ 斜め布のつぎ方はどうしますか。
- ◇ 斜め布の釣合はどうすればよいでせうか。

(チ) 袖及び袖附け 圖のやうに袖口あき止まりより少し奥に切り込みを入れ、細い三つ折り縫ひにします。袖先に五つほどの襷を取り、袖口布を附けます。縫ひ縮めにしてもさしつかへありません(假縫ひ)。次に袖下を縫ひます。



袖をゆるませるため、圖のやうに細かく縫つておきます。

袖山を肩の一番高い所に定め、次に袖下を合はせ、こゝを中心  
に、縫ひ縮めない間を平な釣合として、身ごろから待針を打ち、次に、縫ひ縮めのある間は、袖が平にゆるむやうに袖の方から待針を打ち、假縫ひをします。



文部省調査費局刊行課贈

[後] ¥ 1.20

(112)

# 中等被服一

文部省